

DATE: 23/03/2007

東アジアフォーラム・インタビュー



Yomiuri Shimbun - 2007
マハティール・モハマド 前マレーシア首相

「21世紀地域秩序の創造」

東アジアの地域統合は実現可能であり、地域、世界にとって有益だ。これには中国、日本、韓国の参加が重要となる。ただし、この枠組みに米国を含むべきではない。米国ほどの機構も牛耳りたがり、自分の考えを押しつけるきらいがあるからだ。豪州、ニュージーランドの参加にも反対する。文化的に欧米と同じ系であり、東アジアのそれとは一致しないからだ。私は15年前、「東アジアは一つになるべきだ」と提案した。

米へ影響力 日本に期待

世界貿易機関(WTO)は西側世界の思考で成り立ち、彼らの利益のために存在する。これに対する均衡勢力として、東アジア地域に経済共同体あるいは経済グループが必要だ。その重要性は貿易大国・中国の存在とインドの興隆でこれまでに増している。共産主義国だからと言って、中国をかつてのように封じ込めるべきではない。ASEANは強力な発展途上国グループであり、各国の結束は地域安定にとって極めて大切である。この地域は、重要な航路のマラッカ、ロンボク両海峡を抱える東西の交差点で、情勢が不安定になれば、たまたに貿易に悪影響が及ぶからだ。東アジア共同体に関しては、ユーロのような公式通貨を持つべきだとは思わない。むしろ国際貿易決済のみに使用する貿易通貨を持つべきである。貿易の際、現在は主として米ドル決済となるが、為替変動で乱高下し、貿易取引に悪影響を与えている。世界共通で価値を持つ金に連動する貿易通貨なら、為替変動の恐れなしに決済でき、取引を簡素化される。私たちは日本を地域大国、東アジアのリーダーという観点で捉えたくはない。中国が東アジアを先導すべきであるとも思わない。我々にとって重要なのはいかに東アジア地域のために役割を果たしてくれるかだ。日米は密接な関係にある。対米追随ではなく、日本が米国に影響力を行使し、東アジアの問題を理解させる努力をしてくれるなら、それは有益だ。これこそ日本の役割といえる。

米国はこの地域に第7艦隊の基地を求め、マレーシアや他国に協力を求めた。中国を仮想敵国と考えることだ。米国が中国を敵と見なせば、中国も米国を敵と見なし、自らの軍事力を増強するだろう。米国は常に敵を見極めて攻勢に出ようとするので、人々に不安感を抱かせる。日本は米国の友人として、「これは正しいやり方ではない」と言うべきだ。(聞き手：バンコク・鶴原徹也、シンガポール・花田吉雄、写真も)

(マハティール氏はフォーラムにビデオメッセージを寄せ形で参加します)